

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
 (発達障害早期支援研究事業)
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (葛飾区教育委員会)

1. テーマ

科学的根拠 (エビデンス) に基づいた発達障害の可能性のある児童を早期に把握、支援していくための指導内容・方法の改善

2. 問題意識・提案背景

葛飾区では平成 23 年度より、研究指定校を設置し情緒障害通級等指導学級において読みにつまづきがみられる児童に対して多層指導モデル MIM (以下、MIM) を用いた指導の効果について研究が進められた。その結果、現在では区内全ての情緒障害通級等指導学級において MIM を用いた効果的な指導が行われるようになった。しかし、葛飾区内の通常学級を対象に MIM を用いた指導方法や効果についてはまだ検討は行われていない。

そこで今回は、通常学級の小学 1 年生に対して MIM を用いて特殊音節の習得および読みの流暢性改善方法を検討する。また、指導開始時期および指導内容をモデル校 4 校で統一することで、授業の効果についても検討を行う。

3. 指定校について

指定校名：葛飾区立梅田小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	93	3	73	3	2	64	67	2	66	2	65	2
特別支援学級	4		7		5		3		5		3	
通級による指導 (対象者数)												
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	15	1	0	0	1	5	1		1	26

指定校名：葛飾区立西亀有小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	59	2	73	3	52	2	46	2	57	2	55	2
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)	1		1		3		2		3		3	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	

教職員数	1	1	18	1	0	0	1	4	1	3	30	
指定校名：葛飾区立上平井小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	56	2	42	2	66	2	48	2	58	2	70	2
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)	1		1		2		2		2			
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	15	1	0	0	1	6	1	1	27	

指定校名：葛飾区立原田小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	73	3	72	3	64	2	40	1	56	2	39	1
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)	1		3		1				1			
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	15	1	0	0	1	4	1	1	25	

4. 指定校における取組概要

<p>①目的・目標</p> <p>1) 全モデル校において4月下旬から取組を開始、各ステージにおける指導内容を統一することで、MIM-PMの得点の伸びは見られるか検討を行う</p> <p>2) 発達支援アドバイザー2名が各クラス1学期は計4回、2学期は計8回授業場面に参加することで、各担任がMIMを使用した授業を展開できるよう支援を行う。また、3学期は各学校の先生方と共に発達支援アドバイザーが各学校計4～6回訪問し、3rdステージ対象児童に対して小集団指導を行う。</p> <p>②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化</p> <p>各担任がMIM-PMを4月下旬から実施し、授業が本格的に始動する前段階で各クラス児童の読み能力について把握する。</p> <p>③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容 <p>2ndステージ指導時には、MIM-PMの結果に基づいて3rdステージ指導対象児童に対する机間巡視の頻度を高めた。また、児童がプリント学習している様子を見ながら、場合によっては同じ問題でもヒントが多く書かれているプリントに差し替えたり、50音表を提示するなどしてなるべく児童が自力で問題が解けるよう配慮した。</p> ・放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容 <p>10月までに実施したMIM-PMの結果に基づき、一度も1stステージになったことがない児童を3rdステージ指導対象、つまり小集団指導対象とした。小集団指導</p>

は指導が行える教員の人数、指導時間、使用できる空教室を考慮してクラスごとではなく学年で行った。先生1名に対し児童が2～4名の小集団になるようグループを構成した。グループ構成は、参加児童のMIM-PMの総合点を順に並べ2～4人ずつのグループになるようにした。

④学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法

保護者の同意が得られた児童のみ知能検査（WISC-IV）を実施し、児童の得意な認知特性を踏まえてMIMの授業が展開できるよう配慮した。

また、2学期までの間に隔週で実施したMIM-PMの得点の伸びが他の児童に比べて乏しい3rdステージ指導対象児童に対しては、小集団指導を実施するたびにMIM-PMを実施、得点の伸びが見られるか、見られない場合は次回の指導内容を変更するなどの手立てを行った。

5. 主な成果

各クラスでMIMの授業を行う際、発達障害支援アドバイザーが授業場面に参加することで、担任がMIMのパッケージの内容に沿って正確に動作化ができているか、また音を目で見える形で表現する視覚化のドットを正確に提示できているかチェックを行った。正確に行えていない場合は、その場で正確に再現するよう発達障害支援アドバイザーが担任に助言を行った。これより、全クラスの担任が一人でMIMの授業を行えるようになった。

2学期にも各クラスで2ndステージ指導を継続して行ったことで、全クラスにおけるMIM-PMの得点が伸び続けた。これより、2ndステージ指導を効果的に行うことができたと考えられる。

3rdステージ指導を行ったことで、全体指導ではMIM-PMの得点の伸びがほとんど見られなかった児童の得点が伸びたケースも見られた。また、クラスで全体指導を行っている時は積極的に発言する姿が見られなかった児童が、小集団指導では積極的に発言したり、児童同士励ましあいながら学習する姿をみることができた。これより、MIM-PMの得点の伸びが乏しい児童に対して、1回15分という短い時間であっても継続して指導を行うことで得点を伸ばせることができた。

6. 今後の課題と対応

今回はモデル校実施であったため、発達障害支援アドバイザーが全クラスに入り各担任がMIMの趣旨通りの指導が有効に行われているか確認をすることができた。今後は、全校実施に向けて各担任がMIMを一人で有効に活用できるよう、研修会の充実等を行う必要がある。

また、今後は年間を通したMIMの指導計画を各学校で立案・実施していけるようにするために、一つのモデルとして今年度の実施計画および結果を区内の小学校に情報提供していこうと考えている。

さらに小集団指導に関しては授業外の時間ということもあり、指導時間・空き教室・指導が行える教員の人数等、調整すべき条件が多く、モデル校におい

でも調整に苦勞している学校が見られた。今回のモデル校における実施でも、小集団指導で得点を伸ばせるようになった児童も見られたことから、小集団指導を行う重要性を強調し、1年生の担任のみならず学校全体で協力して体制作りを行えるよう MIM の有効性について周知していく必要がある。

7. 問い合わせ先

組織名：葛飾区立総合教育センター

- (1) 担当部署 葛飾区教育委員会指導室特別支援指導係
- (2) 所在地 東京都葛飾区鎌倉 2-12-1
- (3) 電話番号 03-5668-7602
- (4) FAX 番号 03-5668-7607
- (5) メールアドレス s-hoshi@katsushika.lg.jp